

第2回焼畑サミット in 鶴岡

概要

■日時

2008年11月16日(日) 10:00-17:00

■場所

温海ふれあいセンター (山形県鶴岡市温海)

■主催

大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所(地球研)
文明環境史領域「農業が環境を破壊するとき—ユーラシア農耕史と環境」
(略称: 里プロジェクト/代表: 佐藤洋一郎・総合地球環境学研究所教授)

■共催

鶴岡市
東北芸術工科大学東北文化研究センター(東文研)
山形在来作物研究会(在作研)

■後援(予定を含む)

山形県、山形大学農学部、昭和村教育委員会からむし工芸博物館、山形スローフード協会、JA全農山形、JA庄内みどり、JA庄内たがわ、JA鶴岡、NHK山形、山形放送、山形新聞、荘内日報

■公式サイト

<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project/yakihatasaamit.html>

■問い合わせ先

鞍田崇(総合地球環境学研究所研究員)
京都市北区上賀茂本山457-4 総合地球環境学研究所
TEL. (075) 707-2382
FAX. (075) 707-2508
kurata@chikyu.ac.jp

■テーマ

焼畑と野焼きの文化ー今、東北が熱い！ー

■趣旨

近年の地球環境問題に対する関心の高まりの中で、自然との調和を図り、持続可能なライフスタイルのあるべき姿が問われています。本サミットは、里の文化に根ざした伝統的農法のひとつである焼畑に着目し、火を介した人と自然との関係史を明らかにすることで、それを支えていた思想をこれから私たちがどう継承していくべきなのかを考えるとともに、そもそも人間の生活の営みと自然との関わりはいかにあるべきかについて考えていくものです。

第2次世界大戦後間もない時期まで日本でも広範囲に焼畑が行われていました。なかでも東北地方では、秋田県から福井県に至る日本海側と福島県で行われてきたカブ栽培を中心とする焼畑、および青森県から岩手県に至る太平洋側で行われてきた雑穀栽培を中心とする焼畑が、人々の食を支えてきました。また野山への火入れは、古くから良質なワラビを確保し、カヤやカラムシの栽培管理を行うための手段となっていました。高度経済成長期以後の生活スタイルや価値観の変化にとともに、日本の焼畑実践地は激減しましたが、東北地方には火を利用した耕作がいまも数多く残っています。また最近の傾向として、焼畑や野焼きを自治体レベルで復活していく動きも、東北各地で見られます。

昨年の高知県高知市での第1回に続き山形県鶴岡市で開催される今回のサミットでは、焼畑・野焼きをめぐっていま日本で最も熱い地域ともいえる東北地方にスポットをあてます。「熱い」とはいうものの、個人レベルで行われてきた焼畑や野焼きは衰退しているのも事実です。各地で個別に焼畑や野焼きにたずさわっている人々がひとつの場所に集まり、具体的な取り組みや問題点について情報交換し、今後その技術と知恵をどのように継承していくかを探ることこそ、本サミットの第一の目的です。今回のサミット会場となる鶴岡市温海地区は、三百年以上にわたって温海カブの焼畑を継承し、いまなお焼畑を生業としていとなむ農家が多数残る日本でも数少ない地域であり、今後の日本の焼畑文化を考える上でまさにふさわしい場所といえます。

昨今の熱帯雨林地域で行われている大規模な火入れによる森林破壊は環境破壊の元凶であるといわれることもあり、焼畑に対するまなざしには厳しいものがあります。しかしながら、火を介した人と自然との関係史をひもとくと、それぞれの地域で持続的に生きるための数多くの「暮らしの知恵」とでもいうべきものが見出されます。焼畑は環境破壊の元凶どころかむしろ、自然との調和ある暮らしの典型例といえるでしょう。そこには、私たちが将来にわたって里山を健全に保ち自然と関わりながら生きていくためのさまざまなヒントが内包されています。本サミットが、焼畑をはじめとする火を介した耕作、「火耕」の意義を再認識し、その生活文化を継承するための提案の場となることを開催関係者一同願っております。

なお今回のサミットは「山形在来作物研究会・公開フォーラム2008」として開催されるものでもあります。

■プログラム(予定を含む)

司会：岡恵介氏（東北文化学園大学教授）・六車由実氏（東北芸術工科大学准教授）

午前の部 10:00～12:00

【開会挨拶】：富塚陽一氏（鶴岡市市長）

【趣旨説明】：佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所教授）

【東北の焼畑・野焼き関係フィルム上映会】

<上映フィルム>

「東北発見ー赤カブに生きる～山形県温海町一霞～」（NHK）

解説：

「牛房野のカノカブ」（東北文化研究センター）

解説：

「からむしと麻ー昭和村」（紀伊国屋書店、製作：民族文化映像研究所）

解説： 星為夫氏（昭和村からむし生産技術保存協会会長）

午後の部 13:00～17:00

【焼畑・野焼き実践者からの報告】<ゲスト+聞き役>

山形： 温海の焼畑実践者（カブ）

+ 平智氏（山形大学農学部教授・在作研幹事）

福島： 三島町の焼畑実践者「カノヤキ組」（桐）

+ 遠藤由美子氏（奥会津書房）

秋田： 仁賀保の焼畑実践者（カブ）

+ 佐々木英憲氏（秋田北高校教諭）

宮城： 石巻の熊谷産業（ヨシ）

+ 大沼正寛氏（東北文化学園大学准教授）

=休憩= 15:30～15:45

【鼎談「今、東北が熱い！ 焼畑と野焼きー火耕文化の可能性ー」】

パネリスト：

赤坂憲雄氏（東北芸術工科大学東北文化研究センター所長）

江頭宏昌氏（山形大学農学部准教授・在作研副会長）

佐藤洋一郎氏（総合地球環境学研究所教授）

【閉会挨拶】：高樹英明氏（山形大学農学部教授・在作研会長）

■ロビー展示

- ・つちだよしはるさんの絵本『おじいちゃんのカブづくり』の原画展示会
- ・カラムシ栽培のパネル解説（協力：昭和村からむし工芸博物館）
- ・その他東北の焼畑を紹介するパネルの展示、地場製品の販売など

（作成：鞍田崇・地球研研究員）